

活動報告～植物班～(令和6年～7年度)

植物班では主に四季ごと(年に3～4回)に五ヶ山ダムの倉谷第2ビオトープにて観察を行いました。2年間の活動の中で観察できた植物の一部を紹介します。

春

キツネノボタン(狐の牡丹)



キンポウゲ科
草丈 20-80cmの多年草
花:4-7月(黄色)
名はキツネが棲むような野原に生え、葉が牡丹に似ること由来。
花後に金平糖のような実(有毒)ができる。

ニワゼキショウ(庭石菖)



アヤメ科
草丈10-20cmの一年草
花:4-6月(帯紫白色～紅紫色)
和名は庭に生えるセキショウ(葉がセキショウに似る)を意味する。
花は一日花(朝に開いた花は夕方にはしぼむ)

夏

ヘクソカズラ(屁糞葛)



アカネ科
草丈2-3mの蔓性多年草
花:8-9月(白色、中央部は紅紫)
蔓や葉に強いにおいがあるのが名の由来。田植えの頃にきれいな花を咲かせることからサオトメバナとかタウエバナの名前もある

ツリフネソウ(釣船草、吊舟草)



ツリフネソウ科
草丈30-80cmの一年草
花:8-10月(赤紫色)
花が柄の先にぶら下がって咲くのが特徴
半日陰の湿地や水辺の草むらに群生

秋

ゲンノショウコ(現証拠)



フウロソウ科
草丈30-70cmの多年草
花:7-10月(紅紫色、白紫色)
古くから良質の下痢止めや胃薬、茶として利用され、ゲンノショウコは「実際に効く」を意味する名前

ススキ(芒、薄)



イネ科
草丈1-2mの多年草
花穂:8-10月(白色)
尾のような花穂が特徴で「尾花」とも呼ばれる秋の七草のひとつ。
また、茅(萱)と呼ばれる有用植物の主要な一種。

木本

クマシデ(熊四手)



カバノキ科
樹高10-15mの落葉高木
花:4-5月(黄褐色)
果実が米粒(米の古語が「クマ」)に、垂れ下がった果穂が四手(しめ縄などに下げる紙)に似ていることが名の由来

クサギ(臭木)



シソ科
樹高2-5mの落葉低木
花:7-9月(白色)
葉をもむと悪臭がすることが名の由来。若葉は山菜として、根は薬用、実は染料利用される。

エゴノキ(藪の木)



エゴノキ科
樹高8mの落葉小高木
花:5-6月(白色)、実:9-10月
果皮の味のえぐさが名前の由来。果皮に含まれるサポニンには泡立ち殺菌作用があり、かつては石鱈の代用として利用

リョウブ(令法)



リョウブ科
樹高7-8mの落葉小高木
花:6-9月(白色)
昔から若葉が食用とされ、飢饉の備えとしてリョウブの植栽と貯蔵を命ずる官令「令法(りょうぼう)」が名の由来